行きます・聞きます・提案します
そして伴走します
～商工会の支援事例～ 46

「松尾さん　商売やめるってよ」からの事業再建

支援先：松尾鮮魚店

支援者：能登鹿北商工会　澤井健一

「松尾さん、商売やめるってよ」。そう耳にしたのは、能登半島地震から一か月ほどが経った令和六年二月のことでした。

松尾鮮魚店は、地元の田鶴浜町だけでなく、中島町や志賀町にも常連客を抱える、地域に長く愛されてきた〝お魚屋さん〟です。


被災した旧店舗

しかし、地震で店舗兼住宅は全壊。断水も続き、自宅を失った松尾さんは車中泊を余儀なくされ、心身ともに疲れ果てていました。

その後、少し落ち着き、今後の商売について考え始めた頃、「石川県なりわい再建支援補助金」の存在を知り、説明会にも足を運びましたが、「申請は難しい」「条件が厳しい」といった声を聞くうちに、再建への希望は薄れていきました。

それでも、松尾さんには「本当は辞めたくない。まだやりたい」との想いがありました。商工会も、地域のお客様に愛されてきたこの店をなくしてはいけないと、支援を始めました。


店主の松尾義浩さん

「廃業」から「再建」へ

まず、繰り返し面談を行い、補助制度の仕組みや誤解されやすい点を丁寧に説明して、不安の解消に努め、「補助金の申請支援は任せてほしい」と伝えました。

その結果、松尾さんの気持ちは徐々に「廃業」から「再建」へと変わり、最後は「補助金がなくても再建する」と、強い意欲を示すようになりました。

補助金の申請から実績報告まで、実務面でも伴走支援

再建を決意した松尾さんの行動は早く、まずは旧店舗の筋向いにある倉庫を活用して最低限の工事と設備を整え、仮設ながら令和六年三月に営業を再開することができました。

その後、店舗を倉庫隣に移転新築することとし、三月に建築業者と打合せを行い、五月に発注、九月に完成し、令和六年十月十五日には本格オープンを迎えました。

その間、仮オープンでは小規模事業者持続化補助金（災害支援枠）の申請を支援し、工事や不足していた設備を整備しました。

本格復旧では、「石川県なりわい再建支援補助金」の申請から実績報告までを支援。県職員による個別相談会への同席や、業者を直接訪問し見積書の修正を依頼するなど、実務面でも支援しました。

新店舗で実現した「効率化」と「魅せる陳列」

新店オープン後の滑り出しは順調で、移転により倉庫との行き来が容易になったことから、作業効率が向上しました。



移転オープンした新店舗

加えて、陳列ケースを入れ替えたことで、干物や手作り惣菜などを見やすく並べる「魅せる陳列」が可能になり、松尾さんからは「前からやりたかったんだ」と喜びの声も聞かれました。

松尾鮮魚店は、今後も地域に愛される〝お魚屋さん〟として歩み続けます。


陳列ケースに並べられた商品

担当経営指導員から一言

今でも、店を訪ねると、松尾さんは「世話になった。ありがとう」と笑顔で声を掛けてくれます。一度は廃業を考えた松尾さんが、再建を果たし、地域に商売を残してくれたこと。それが、この支援で得られた何よりの成果です。

松尾鮮魚店
〒九二九-二一二一
七尾市田鶴浜町ト部一九六番地
TEL〇七六七-六八-二〇五〇

この事例は、令和七年度石川県商工会優秀支援事例の優秀賞を受賞しました。